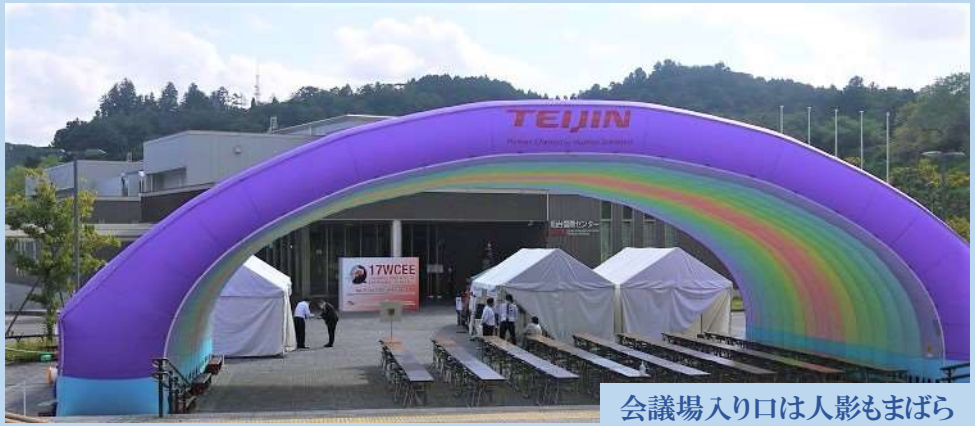
3.11から10年目の津波被災地を巡るBRTと三陸鉄道の旅

仙台で世界地震工学会議と震災対策技術展が開催された機会に，南三陸町から盛，釜石，宮古を経由して田野畑村までの三陸沿岸の幾つかの地域を，公共交通機関を利用して見せて頂いた．

これまでの三陸沿岸各地の被害調査に車を利用していたのは，必要な時間だけ自由に停車できるという利点のためであったが，今回は南三陸町志津川地区と気仙沼駅で下車した以外は，宮古まですべて車窓からの現状確認のみであった．宮古には一泊して，翌日は田老町と田野畑村を歩き，宮古市街を大きな津波被害を受けた港地区まで見せて頂いた後，JR山田線で盛岡に移動した．

今回の被災地訪問の印象を一言で表現するならば，「人気のない寂しさ」に尽きるように思われた．3.11の前後には思い出したようにマスメディアの注目が集まり，人々も復興商店街に足を運ぶのであろうが，現在はオフシーズンの上に新型コロナ禍の影響が甚大で，仙台以北の東北線，石巻線，気仙沼線，BRT，三陸鉄道，山田線のいずれも乗客が数人程度のガラガラ状態で，街並みも閑散としていた．

第一の目的である仙台では，東北大学川内キャンパスに近い仙台国際センターで開催中の第17回世界地震工学会議のポスターセッションと自然災害対策技術展に参加させて頂いた．しかし新型コロナウイルス感染症対策のため国際会議の主要部分はオンライン開催となって，会場は閑散としており，外国からの参加者も全くと言ってよいほど見かけなかった．



会議場入り口は人影もまばら

会場に近い東北大学川内キャンパス

東北大学の川内キャンパスに近い仙台国際センターで開催された世界地震工学会議と震災(自然災害)対策技術展

国際会議はオンライン発表が主で，ポスター展示は震災対策技術展と同一会場で行われていた．会場は新型コロナ感染予防対策のもと入室管理されていたが，参加者は少なく，場内は閑散としていた．

仙台駅

展示会場に掲げられた「今年の漢字」．左から順に1995年，2018年，2011年の漢字．

3.11後に開発された転ばないこけし「仙臺さすり」

震災対策技術展のブースも人影はまばら．

仙台から小牛田-前谷地-柳津経由で志津川へ

東北本線小牛田駅で石巻線に乗り換え

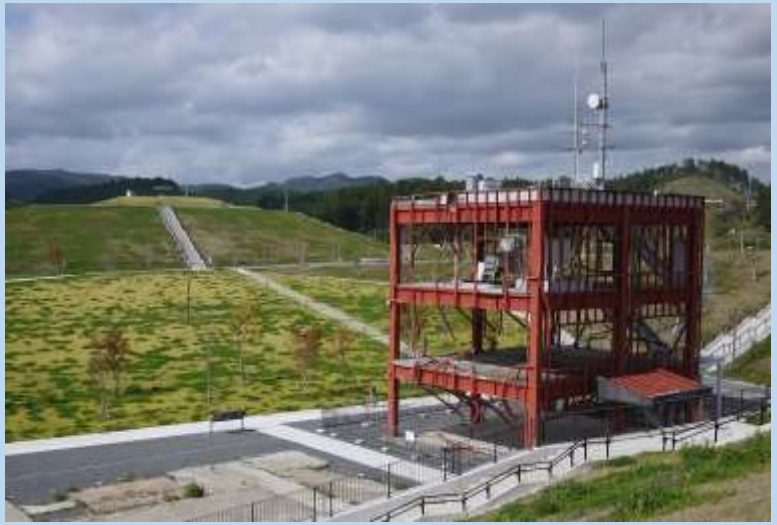
松山町駅周辺の田園風景

気仙沼線柳津駅でBRTバスに乗り換え

JRの代行バスBRT(Bus Rapid Transit)

BRTはそのほとんどの区間を気仙沼線と大船渡線の線路を利用して運行している.

南三陸町志津川地区



震災遺構となった旧防災対策庁舎と背後の「祈りの丘」

新型コロナの影響で客足が途絶えたサンサン商店街

サンサン商店街のにぎわい(現地の写真より)

南三陸町志津川地区の中心部は丘の上

南三陸町の伝承館は閉館中

南三陸町震災復興祈念公園の案内図

3.11では災害対策本部，仮役場，避難所として活躍したベイサイドアリーナ

新しくなった消防署と警察署(左奥)

気仙沼
(BRT乗り換え駅)

駅周辺と
車窓からの風景

BRTの車窓から見た気仙沼港周辺の光景

JR気仙沼駅

震災復興住宅

気仙沼の観光ポスター

閑散としたBRT車内

BRTの説明文

駅前の至るところに朝ドラのポスターが

「奇跡の一本松」を中心としたメモリアル地域

震災遺構となった旧気仙中学校(中央)

陸前高田

大規模な嵩上げ工事で街は復興できたのか？

2014年に嵩上げ工事の現場を見せて頂いたが，今現在も広大な敷地は殆ど空き地のままであった．

4階まで津波を被ったアパートはそのまま保存されていた．

今は跡形もない中央公民館・市民体育館

高台の住宅地

高台の学校

BRTが走る小友地区の農村風景